

地域行事の継承を目的とした教材開発 ～沖縄県南城市大里字古堅区の豊年祭「古堅のミーミンメー」～

新里香乃、加藤真由美（岐阜女子大学）

地域行事の継承は全国的にも大きな課題である。文部科学省は改正された教育基本法と新しい学習指導要領において伝統や文化に関する教育の充実を図っているが、地域の少子化や人口減少がこの課題解決を困難にしている。解決には、学校教育だけでなく、地域における教育力の向上が必須である。以下に地域行事の継承を目的とした教材開発と地域における活用について示す。

1. 古堅区の豊年祭「古堅のミーミンメー」

古堅区は沖縄県南部に位置する人口約300名の小規模地区である。古堅区も少子化・人口減少が進み、区の豊年祭に参加する小学生も年々減少。以前に比べて祭事の規模も小さくなり、将来の祭事の継承が危惧されている。

豊年祭に参加する子どもたちが、その歴史や文化的背景、継承してきた地域の人々の思い・願いなどを知る機会ほとんどない。そこで、古堅区の方々にご協力いただき、将来、祭事を担う小学生低学年を対象にそれらを学ぶことができる教材の開発を行った。



図1 祭事の神様 ミルク様

2. 地域行事の継承を目的とした教材の実際

(1) [教材1] 紙芝居

めあて 「古堅のミーミンメー」の歴史や文化的背景、継承してきた地域の人々の思い・願いを知ろう。



図2 8枚にまとめた紙芝居

古堅区の豊年祭は「古堅のミーミンメー」の名称で南城市指定無形文化財に指定され（平成2年3月15日）、区においても重要な行事のひとつである。その歴史や文化的背景、継承してきた地域の人々の思い・願いについて、地域史や字誌などの複数の文献、自治会長や保存会の方への聞き取り、提供いただいた資料から情報収集し内容を精査して紙芝居を作成した。

(2) [教材2] ミーミンメーの歌詞動画

めあて 三線の旋律を親しみ、方言で唄われるミーミンメーの歌詞の意味を知ろう。

古堅のミーミンメーには祭事と同一名称の「ミーミンメー」というプログラムがあり、参加者のうち最年少の園児～小学校2年生までの子どもたちが参加する。

ミーミンメーは方言で唄われる歌と簡単な踊りがあるが、子どもたちには方言の歌詞の理解は難しい。そこで、まずは三線の旋律を親しみ、方言で唄われる歌詞の意味を知ることこの教材のめあてとした。地域の三線の担当の方をお願いして音源データを収集し、これにあわせて歌詞スライドが表示される動画を作成した。

(3) [教材3] データベース

自治会長に聞き取り調査を行った際、大量の紙資料を「是非参考にしてほしい。」と預かった。中には豊年祭のプログラムや準備する品物の個数一覧、会計書類、祭事を行う拝所に関するコピー資料など、大量の貴重な資料がほぼ未整理の状態だった。これら資料を自治会長に許可を得て、著作権処理が必要なものは処理を行い、地域資料データベース（html形式）に整理した。

3. 開発した教材の継続的な活用とまとめ

開発した3つの教材は古堅区民館に設置し、訪れた区民がいつでも館内で利用できるできるようにする。[教材3]は未登録・著作権未処理の資料もあり、引き続き作業を行う必要がある。

地域行事の継承の課題は、地域内における人々の関わりやコミュニケーションが地域の人々の想いや願い、考えの理解や共有につながり、さらに地域や地域行事に親しみをもつことにより、解決の可能性がうまれる。そのためにも地域での継続的な取り組みが必要となる。特に、幼少期からの地域行事への参加については、平成29年度に告示された「幼稚園教育要領」第2章ねらい及び領域〔環境〕2内容には「(6)日常生活の中で、わが国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。」と記されており、重視されていることがわかる。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により豊年祭が中止となり、教材を活用する機会がなかった。来年度は教材の活用とアンケート調査等を実施し、結果からその効果や改善点を探り、地域行事の継承に役立てていきたい。



図3 古堅区豊年祭（2004年）

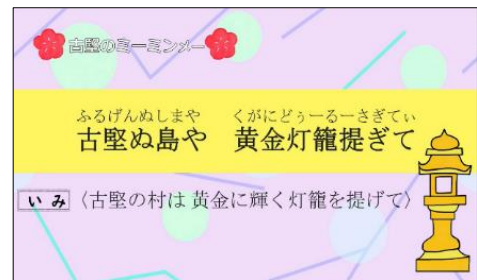


図4 歌詞動画

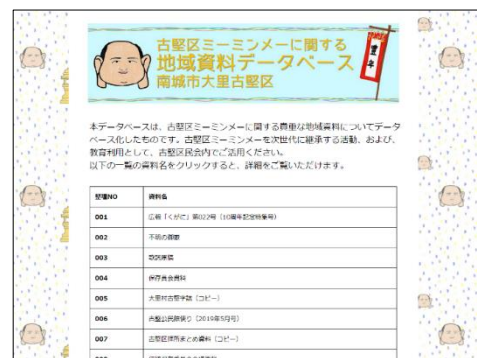


図5 データベース画面